

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10) 平成27年度:39.

死産に直面した助産師への支援

林 智江, 永田 裕子, 阿部 明美

## 死産に直面した助産師への支援

旭川医科大学病院 周産母子センター

○林 智江、永田裕子、阿部明美

【目的】死産に直面した助産師への支援と背景を明らかにする。【方法】研究対象者は死産に直面した助産師を支援した経験がある勤続4年目以降の助産師とし、半構成的面接を行い、得られたデータは質的記述的に分析した。研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得、研究対象者には文書および口頭で研究目的を説明し同意を得た。【結果】死産に直面する助産師に行っている支援では【助産師の個別性の把握】【助産師を支える】【死産と向き合える環境を整える】【患者ケアの支援】【ともに振り返る】【経験を伝える】【自身の支援の振り返り】の7つのカテゴリーが抽出された。支援を行うに至った背景では【死産について学ぶ機会がない事による戸惑い】【自身の考えるケアに

ついで迷い】【患者への精神的ケアの不足】【助産師が向き合える環境の重要性】【内省することで助産師が自ら乗り越える】【患者への精神的支援の重要性】の6つのカテゴリーが抽出された。【考察】対象者は死産と向き合える環境を整えることで助産師が内省し乗り越えられると考えていた。また、自分も死産ケアに対する戸惑いや学習不足がありながら助産師を支え、時には自身の経験を伝え、ともに振り返ることによって内省を促していた。一方、患者への精神的ケアが重要であると認識しているものの、自分も十分にケアできていない思いがあり、直接ケアを行っている助産師と一緒に患者ケアを行っていた。

第56回日本母性衛生学会総会・学術集会

## 利益相反の開示

筆頭発表者名： 林 智江

演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

## 死産に直面した 助産師への支援

旭川医科大学病院 周産母子センター

林 智江 永田裕子 阿部明美

### 研究動機

死産に直面する助産師には自分の感情に向き合うこと、メンタルヘルスを保つことが重要であるとされているが、死産は非日常であるため、助産師が個別性のある具体的な介入について学ぶ機会が少ない現状にあるとされている。

A病院では死産においては可能な限り助産師一人を専任とし、死産に直面する経験が少ない助産師に対しては教育的役割を担える助産師が支援できるような環境を整えている。

### 研究目的

死産に直面する助産師を支える助産師は、意識的にどのような支援を行い、また、その意識的な支援を行うに至った助産師自身の経験を、どのように支援に活かしているのかを明らかにする。

### 方法

- 研究デザイン  
質的記述研究（半構成的面接法）
- 研究対象者  
A病院において教育的役割を担っており、死産に直面した助産師を支援した経験のある勤続4年目以降の助産師3名
- 面接はインタビューガイドを作成。
- 事前に研究の同意を得た助産師に面接を実施。
- 面接内容は「死産に直面するスタッフに行っている支援について」である。得られたデータは質的記述的に分析した。

### 倫理的配慮

倫理委員会承認後、対象者に文書および口頭で研究内容を説明し、自発的に協力を申し出た人に同意書に署名を頂き、面接を行った。

研究への参加は自由意思であること、不参加によって被る不利益はないこと、研究のどの段階においても研究協力の自由参加と拒否、および中止の権利を保障した。

研究で得られたデータは、個人的に特定されないように処理することを伝え、研究の過程、および公開に際しては匿名化を保持し、研究終了後は速やかにデータを破棄することを説明した。

### 結果①

死産に直面する助産師に対して意識的に  
行っている支援

- 【死産と向き合える環境を整える】
- 【後輩助産師の個別性の把握】  
⇒死産のケア経験を確認
- 【後輩助産師を支える】  
⇒後輩助産師への精神的ケア、共感

- 【後輩助産師が行う患者ケアの支援】
- 【助産師の患者ケアの向上のための支援】  
⇒振り返り、学習方法提示
- 【経験を伝えるという意識をもつ】  
⇒一緒にケアを実施
- 【自身の支援の振り返り】

### 結果②

支援を行うに至った自身の助産師自身の  
経験

- 【死産について学ぶ機会がない事による  
とまどい】  
⇒患者ケアのイメージ、学習がない
- 【自身の考える精神的ケアについての迷い】  
⇒支援する助産師自身も悩んでいる
- 【患者への精神的ケアの不足】

- 【助産師が向き合える環境の重要性】  
⇒後輩助産師の心の余裕が必要
- 【助産師としての学び】  
⇒後輩助産師が自分で振り返る
- 【精神的支援の重要性】  
⇒患者の戸惑い、不安に対する  
精神的ケアが重要

### 考察①

支援する助産師

後輩助産師

学習不足  
とまどいがある

個性の把握

経験年数  
担当分娩例数  
性格・・・

支援を考える

### 考察②

支援する助産師

後輩助産師

自分も十分ケア  
されなかった  
自分も悩んだ

経験を伝える

一緒にケア  
学習方法提示  
肯定的態度

後輩助産師を  
支えたい

### 考察③

支援する助産師

後輩助産師

患者への  
精神的ケアが重要

環境を整える

一緒にケア  
患者に寄り添う

内省

心の余裕

### まとめ

- 支援する助産師は、自身の死産ケアの結果からも学習不足を感じており、誰しも戸惑いを抱えながらのケアであることを実感している。
- 支援する立場になったとき、環境を整えるなどの業務調整のほかに、自身の経験を思い出し、個別性がある精神的な支援を意識している。
- 経験自体を伝えるだけではなく、死産に直面した経験から、後輩助産師自身が内省することで得られるケアの考察や経験を重要視している。

### 引用・参考文献

1) 舟山ゆかり：赤ちゃんを亡くした家族と関わる看護職者が抱える気持ち スタッフケアの必要性について,神奈川母性衛生学会誌,Vol.12(1),pp46-53,2009

2) 竹内正人：赤ちゃんの死を前にして 流産・死産・新生児死亡への関わり方とこころのケア,中央法規出版株式会社, p55,2008

3) 野口絵美・加納尚美：死産を経験した産婦をケアする助産師の心理,茨城母性衛生学会誌,25号,pp35-42,2005

4) 山中美智子：赤ちゃんを亡くした女性への看護,株式会社メディカ出版,p30,2009